

BCAO 関西支部 第79回勉強会議事録

日時： 2013年6月21日(金) 18:40~20:30

場所： 大阪市総合生涯学習センター第4研修室

議題： 今後の支部活動について

座長： 鷺山 書記： 紅谷

出席者： 川口均、大館伸行、日下太一、萩原正五郎、柳父行二、伊藤高信、鷺山能雄、野原英則、
紅谷昇平、速水義一、磯打千雅子、徳永智子、西野保、松下浩基、増穂稔、北山玲（計 16 名）

内容： 概要以下のとおり

1. アンケート結果報告

（鷺山座長よりメーリングリストにて資料配付予定）

2. 意見交換

2-1. 香川大学における取組の紹介(香川大・磯打先生より)

- ・ 徳島大と香川大とで、危機管理の専門職大学院の連携事業に取り組んでいる。大学院の学生、社会人（行政、燃料、電力など）が対象である。
- ・ ずっと大学にいた先生の講義は、実務に役立ちにくいことがある。BCの大学院の講義をどうするか、実務のノウハウをどう入れるか悩んでいる。
- ・ 香川大学で、BCPの勉強会を月1回開催している。行政、自衛隊、消防、自主防、企業など、毎回70名程度が参加している。

2-2. 日帰り見学について

- ・ 日帰り見学で、香川大学にも来ていただきたい。3Dで災害状況を再現する訓練システムを導入している。
- ・ 稲むらの火の館など和歌山訪問は、田中氏に検討いただくことになっている。
- ・ 兵庫県の災害対策センターで、淡路島の地震での物資提供や被害予測システムの話聞いてはどうか。
- ・ 神戸港は、チャンネルがないと、なかなかBCMについて聞けないのではないか。
- ・ 京都大学の3か所（宇治・熊取・高槻）も候補となる。阿武山は、毎月2回くらい公開見学会をしている。

2-3. 勉強会の運営について

○勉強会テーマの考え方

- ・ あがってきたテーマには多様で、いろんな意見が出ている。運営委員会が、これらのテーマから拾い上げて決めればよい。

- ・ 勉強会のテーマは誰のために、何のためにやるのか。参加者のレベルアップのためか、社会に発信するためか。それを決めないと、漠然としてしまう。
- ・ もう少し絞り込んで、例えば1年間、南海トラフ地震や和歌山県、四国、大阪市などフィールドを決めて取り組む方法もあるのでは。
- ・ 一つのテーマに絞ると、それに興味のない人が参加してくれないのでは。

○勉強会の講師

- ・ 先日の運営委員会で、勉強会の講師は外部に頼るのではなく、関西支部メンバーでやろうということになった。
- ・ 関西支部で講師がいればそれを優先し、そうでなければ東京にも声をかければいい。
- ・ 横連携として、東京の13の研究会に資料提供、講師の紹介などを要請しても良いのでは。
- ・ 関西支部のメンバーが既に知っている内容だけでなく、新しい分野を何カ月か勉強して、スピーカーになる方法もある。

○勉強会テーマへのニーズ

- ・ リスクの中身より、実際にどう対応するかを知りたい。
- ・ 企業の担当は、新しいリスクが出てくると、それへの対応を求められるので、タイムリーにとりあげてもらえれば、会社に持ち帰ることもできる。
- ・ この会に参加しているのは、一つのものに対して知見を深めるというよりは、学んだことを会社の業務に活かすためである。
- ・ いろいろなリスクに対応する立場からすれば、一つのリスクを学問的に取り組むよりも、対策、考え方について多方面に勉強できると助かる。

○関西支部の活動について

- ・ 関西支部は小さいので、まとまりやすく、動きやすさというメリットがある。
- ・ 東京の研究会は、活動内容よりも、情報が早いという印象がある。
- ・ BCAA 関西支部として、エッジの部分が何か考えなければいけない。
- ・ 関西支部としてのアウトプットを、公開研究会として発表する方法もある。例えば、東北訪問と淡路島視察の成果をもとに、企業関係者の立場からの南海トラフ地震のシナリオを描いて発表してもいい。

2-4. 勉強会の具体テーマについて

○感染症

- ・ 国内での風疹流行で、米国の CDC から日本への旅行者には予防接種のリコメンデーションが出ているが、国内では新型インフルエンザと異なり関心が高まっていない。

○南海トラフ巨大地震について

- ・ 南海トラフについて関心が高まっているので、その勉強会もありだと思ふ。巨大災害の代表例であり、BCP や地域防災を考えるきっかけになる。
- ・ フィールドとしては、和歌山、四国に興味があり、対策の実態を知りたい。

- ・ 南海トラフ巨大地震に1年間取り組んだとして、その成果を誰にいうのか。行政相手では、ここにいない人や中小企業が付いてくるのか。勉強会では、中小企業にすぐに役立つテーマと、南海トラフとに分けて、両方に取り組むことも考えられる。

○8月勉強会のテーマ

- ・ 内閣府が発表した南海トラフ巨大地震に関する最終報告書を、各自が事前に読んできて、話を膨らませたい。
- ・ 最終報告書の裏事情が分かる講師を招いたり、事前ヒアリングしたりしてはどうか。
- ・ 報告書にはたいしたことは書いておらず、裏話は必要ないのではないか。
- ・ 最大規模の想定というものが伝えるメッセージを、どう解釈するか。「避難して命を守る」しかないのではないか？
- ・ 報告書全体を読むのは大変なので、章ごとに担当数名を選んで、8月に発表していただくのはどうか。
- ・ 具体的な進め方、担当について、企画委員にて検討し、改めて連絡する。

以上